

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名	一般国道140号 三富道路	事業区分	一般国道	事業主体	山梨県								
起終点	起点 山梨県山梨市三富川浦 終点 山梨県山梨市三富川浦			延長	2.9 km								
事業概要 一般国道140号は、埼玉県熊谷市と山梨県増穂町を結ぶ延長約182kmの幹線道路であり、第一次緊急輸送道路にも指定されている重要な路線である。三富道路は、雁坂トンネル開通による大型車の増加に対応するため、急勾配区間に登坂車線を設置し交通の円滑化を目的とした、現道拡幅事業である。													
H10年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H12年度用地着手	H12年度工事着手										
全体事業費	53 億円	事業進捗率	79%	供用済延長	0.4 km								
計画交通量	4,000台/日												
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 4.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 15/62 億円 (事業費: 11/58億円 維持管理費: 3.8/3.8億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 70/70億円 (走行時間短縮便益 69/69億円 走行経費減少便益: 1.1/1.1億円 交通事故減少便益: 0.00/0.00億円)	基準年	平成19年								
感度分析の結果 —													
事業の効果等 登坂車線を設置することによる交通円滑化													
関係する地方公共団体等の意見 国道140号(西関東連絡道路)の整備について地元山梨市より要望を受ける。(H18.9.27)													
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 H18.12.20 西関東連絡道路の甲府山梨道路(山梨市万力から甲府市桜井町間)供用開始。													
事業の進捗状況、残事業の内容等 順調に事業は進捗している。残事業は橋梁工事及び道路改良工事。													
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 橋梁工事及び道路改良工事を促進し平成21年度の完成を目指す。													
施設の構造や工法の変更等 橋梁の架替えを行わず、既設橋梁を補修・補強し、利用することにより約2億円のコスト縮減を図る。													
対応方針	事業継続												
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。												
事業概要図	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 20%;"> <p>三富道路</p> </div> <div style="width: 60%;"> <p style="text-align: center;">L = 2.9 km H19工事推進</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>凡例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 10px; background-color: black;"></td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 10px; background-color: gray;"></td> <td>事業中</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 10px; background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px; height: 10px; background: repeating-linear-gradient(-45deg, transparent, transparent 2px, black 2px, black 4px);"></td> <td>うち供用中</td> </tr> </table> </div> </div>						供用中		事業中		再評価箇所		うち供用中
	供用中												
	事業中												
	再評価箇所												
	うち供用中												

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。